

水稻の「いもち病」に注意しましょう！ 穂いもち発生防止に向けて適期防除を忘れずに！

1 発生状況

7月～8月上旬の巡回調査では、中山間地の一部で、水稻葉いもちの発生が確認されました（表1）。葉いもちの発生が少ない場合でも、今後の天候により穂いもちが発生する恐れがあるので、水田をよく見回り、葉いもちが発生している場合は早急に薬剤防除を行いましょう。

表1 令和3年度水稻いもち病（葉いもち）ほ場調査結果（葉いもち発病株率 %）

調査地点	年度	7月	8月	調査地点	年度	7月	8月
豊能町切畑	3年度	0	0	富田林市西板持	3年度	0	2.7
	平年値	2.2	0		平年値	2.5	2.3
能勢町稲地	3年度	0	0	羽曳野市尺度	3年度	0	
	平年値	-	-		平年値	0	0
茨木市下音羽	3年度	1.3	93.3	和泉市国分町	3年度	0	
	平年値	12.8	17.6		平年値	0	7.5
枚方市招提	3年度	0		泉佐野市日根野	3年度	0	
	平年値	-	-		平年値	0.8	0
八尾市水越	3年度	0	0	岬町谷川	3年度	0	
	平年値	2.7	3.1		平年値	0.2	0.1

※空欄は現時点未調査。能勢町稲地と枚方市招提は本年度からの新規調査地点のため平年値が無い。

2 いもち病について

- （1）いもち病は育苗期から成熟期まで発生する。発病部位によって、育苗中～後期及び分けつ期の葉いもち（図1）と出穂後の穂いもち（図2）（穂首いもち（図3）、枝梗いもち、みごいもち、靱いもち）、節いもちなどがある。
- （2）病原菌の菌糸や孢子が被害わら・もみ等で越冬し、翌年、種子伝染、空気伝染して発病する。
- （3）気温 22～26℃、多湿で日照不足の時に多発し、降雨が続く、窒素過多、過繁茂などの場合に発病が助長される。
- （4）孢子は一般的に夜中に飛散する。いもち病菌が植物体内部に侵入するには、葉上等に露などの水滴が必要であり、曇雨天でイネの露が乾きにくいときに多くの孢子が侵入する。
- （5）イネは体内に可溶性の窒素が多いと、いもち病に対する抵抗性が弱まる。日照の多いときはイネ体内の可溶性窒素が少なくなり、抵抗性が強まる。



図1 葉いもちの病斑



図2 穂いもちによる穂枯れ



図3 穂首いもち病斑部

<いもち病の発生しやすい条件>

- ・ 野菜栽培跡地等で窒素肥料が効きすぎた葉色の濃い水田
- ・ 中山間地で冷水の入る水田や川沿いにあるなど、朝露が乾きにくい水田
- ・ 昨年、いもち病の発生が多かった水田

上記条件を満たし、かつ移植時に、いもち病に効果がある薬剤を含む箱処理剤を使用しなかった水田は特に注意する。

2 防除対策

◆病害虫防除グループホームページにて

「令和3年版大阪府病害虫防除指針」を公開しています。併せてご参照ください。

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>

- (1) 今後、8月の高温により、葉いもちの発病が抑えられる可能性があるが、気象条件によっては、穂いもちの発生が懸念されるため、ほ場をていねいに見回り、葉いもちが認められたら、早急に薬剤防除を実施する。
- (2) 特に上位3葉に葉いもち病斑があると穂いもちに移行しやすいので、出穂期及びその後に降雨が続く場合は、穂いもちの防除を徹底する。
- (3) 枝梗の部分に発生するいもち病は、遅くまで発生することがあるので注意が必要である。発生が多い場合は穂ぞろい期～乳熟期にも防除する。

いもち病本田施用剤（例）（令和3年7月現在）

※四角囲み内はいもち病有効成分のFRACコード

1 本田において、葉いもち及び穂いもちの発生が見込まれる場合には、下記の薬剤を施用する。

コラトップ粒剤 5 16.1
【3～4kg/10a 散布 葉いもち：初発 10 日前～初発時、穂いもち：出穂 30～5 日前/2 回】
コラトップ豆つぶ 16.1
【250～375g/10a 散布 葉いもち：初発 10 日前～初発時、穂いもち：出穂 30～5 日前/2 回】
ゴウケツ粒剤、サンブラス粒剤 16.3
【3～4kg/10a たん水散布 出穂 5 日前(収穫 30 日前)/1 回】
キタジン P 粒剤 6
【3～5kg/10a 散布 葉いもち：初発 7 日前～初発時、穂いもち：出穂 7～20 日前/2 回】

2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

ブラシフロアブル U14 16.1
【1,000 倍 7 日/2 回】
ダブルカットバリダトレボン粉剤 3DL 16.1 24
【3～4kg/10a 散布 穂揃期/2 回】

薬剤により使用時期が異なるため、適期に散布する。

農薬はラベルをよく読んで登録の有無、施用量や使用時期等を確認の上使用してください。

薬剤を散布する時は、周囲に飛散しないよう注意する。

3 その他

◆病害虫防除グループホームページ
<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>

◆農薬の最新登録情報は、農林水産省の農薬登録情報提供システムで確認してください。
<https://pesticide.maff.go.jp/>